



「定期テスト直前の朝学習」



「インター生の学習相談」



「土曜特別講座の熱血授業」

●「特進一貫クラス」か 「インターナショナルクラス」か？

2009年度入試では海外入試を行わなかったため、一時帰国して国際生入試を受験する児童が結構ありました。「インターナショナルクラス」ばかりか「特進一貫クラス」の人気も急上昇しているため、2月の一般入試では心配になったのかもしれない。

「特進一貫クラス」は、高校2年末までに高校の教科書を終了するコース(40人学級)です。「特進選抜クラス」に比べてややゆっくり授業を進めますし、指導も基礎力養成や弱点克服に重点を置いています。しかし、「先取り学習」に変わりはありませんし、日本語指導もありません。日本語力も含めて基礎学力がかなりしっかりしている生徒には適したコースでしょう。

一方「インターナショナルクラス」では、英語圏の現地校の授業についていけるだけの学力があれば、十分に授業についていきます。日本語の指導(JSL)もありますし、10数名の少人数クラスである点も、学力を伸ばしていく上で安心です。日本の大学はもちろん、海外の大学進学を目指せるカリキュラムとなっています。

いずれにしても、コース選択は慎重に願いたいものです。

小山 和智 (おやま かずとも)

広尾学園中学校高等学校 国際担当



海外子女教育振興財団の外国語保持教室主任のほか、ジャカルタ日本人学校事務長、クアラルンプール日本人学校国際交流ディレクター、啓明学園国際教育センター所長を歴任。

現在は「グローバル化社会の教育研究会」の事務局長としても活躍中。

<http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/>

英語補習校だより (16) 補習校の宿題は大変？

海外の日本語補習校に通う子供たちは、週末になると宿題を仕上げるのに大忙しだという話をよく聞きます。補習校から帰ったら直ぐにやっておけばよいのかもしれませんが、なかなかできないものです。

英語補習校でも、宿題は出ます。例えば、子供たちは毎週、英語雑誌や英字新聞から面白いと思った記事の一つを選んで切り抜き、ノートに貼り付け、要約と意見を添えて提出します。講師はそれを添削して返します。

また、ブックレポートの宿題もあります。誰もが知っている名著の中で、未だ読んだことがないものを1冊選び(保護者が確認します)、300語前後のレポートにします。レポートは「序論、本論、結論」の形を整えておかなければいけません。2週間に1冊のペースで提出していくと、語い力・読解力とともに文章力も向上していきます。

これらは、スピーチ原稿を書く訓練にもつながります。6年生なら、書いたら直ぐに発表もさせられます。お遊びにならないために、必ずビデオに撮るようにしていますが、これは帰国直後の子でも泣き出すくらいの緊張を伴うものです。

宿題もスピーチも、決して楽ではありませんが、講師や仲間の励ましに支えられて、子供たちはさまざまな経験を積んでいきます。

<http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/Eigo-Hoshuko-J.htm>

広尾学園中学校高等学校

〒106-0047 東京都港区南麻布 5-1-14

TEL. 03(3444)7271 FAX. 03(3444)7192

www.hiroogakuen.ed.jp



「英語での勉強中心で、日本の高校卒業資格を取得」できる、広尾のインターナショナル・クラス。帰国生のニーズを先取りしてスタートしたので、当然ながら、希望者が増えてきます。

「インターナショナル・コースの情報を」の期待に responding いただきました。また、今年の入試の結果なども、教えてください。小山先生、よろしく。